

会 議 報 告 書

件 名	前橋市アーバンデザイン策定に係る第3回策定協議会について
日 時	令和元年8月9日（金） 午後3時00分 ～ 午後5時00分
場 所	臨江閣別館1階西洋間
出席者	<p>前橋市アーバンデザイン策定協議会委員</p> <p>共愛学園前橋国際大学 学 長 大 森 昭 生 前橋工科大学 准 教 授 杉 浦 榮 前橋中心商店街協同組合 理 事 長 植 木 修 前橋商工会議所 宮 下 学 前橋商工会議所青年部緑水会 代表幹事 遠 藤 宗 司 前橋青年会議所 理 事 長 吉 田 雅 則 日本建築家協会関東甲信越支部群馬地域会 代表幹事 小 林 光 義 都市再生機構東日本都市再生本部まちづくり支援部 部長 折 田 茂 穂 (代理) 課長 亀 山 守 一</p> <p>水辺総研 代 表 岩 本 唯 史 HAGI STUDIO 代 表 宮 崎 晃 吉</p>
協議目的	前橋市アーバンデザインの策定にあたり、効果的で実行性のある計画とするために、地元関係者や専門的な見地をもった学識者等からなる策定協議会に取り組み状況を説明し、意見を聴取する。
趣旨	<p>1. 開会</p> <p>2. 自己紹介等</p> <p>3. 議題 ・事務局より説明を行った後、意見交換を行った。</p> <p>意見交換の概要</p> <p>○成果の内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで行ってきた行政主体のまちづくりの仕事の仕方を変えなければならぬ事を前橋市アーバンデザインは示している。 ・前橋市は民間側で企画したまちのイメージ戦略もある。民間の提案を100%全て満たせるわけではないが、ビジョンは未来の目標であり、それをまちの人たちが掲げ続けている状態が望ましい。 ・今後はブラッシュアップされ、まちの人たちがこんな未来に向かいたいと思って修正をして行くことや、積み重ねていく等、常に更新していくことがこのまちを本当に良くしていくことになる。 ・ガイドラインは行政がつくる場合、縛ることに作用する危険性があるので、様々なチャレンジがし易くなるために使いやすいものにしないとしない。 ・ローカルをこれだけ前面に打ち出すことは田舎のまちでは出来なかったことなのではないかと思う。堂々とそこに価値があるということと言わんとしている。これは今の若者にも刺さると思う。 ・ただ、前橋が他都市と差別化して、どのような特質をもつローカルなのか、わかりづらいところもある。 ・クオリティとしては非常に高い提案書であると思う。 <p>○成果のとりまとめについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いたい事を全て載せてしまっているがために、一言でいうと何かが解りにくくなっている印象がある。前橋市アーバンデザインを一言でいうと何か、主旨が明確になるような表現が必要。

- ・前橋市アーバンデザインを突き詰めた結果、どうなるのかというビジョン＝将来像を冒頭に示す方が良い。また、そのビジョンが、内容をイメージしやすい短いフレーズで集約して表現されると良い。
- ・サブタイトルとして「官民で目指す新しいまちのつくりかた」のようなものをつけるのはどうか。
- ・イベントだらけのまちではイベント疲れし、人口規模からすると祭りばかりしても仕方ないため、いかに豊かな日常を送れるかというところをもう少し顕在化させるような側面があってもよい。
- ・アーバンデザインによって、市民にどんなメリットがあるのかが解り難いという印象がある。前橋が他と比べて何がポテンシャルとして高いのかということが見えない。
- ・今まで大規模な再開発をしていないということが前橋市の一つ特徴としてある。商店街も昭和的な街並みとして残っており、チェーン店もない、そういうところをもっとアピールしてもよいのではないか。
- ・前橋の魅力的なところは、けやき並木や広瀬川、アーケードの商店街や煉瓦倉庫などがあり、前橋らしい特徴である。こうした点をもっとアピールしてあると良い。
- ・前橋市は20世紀型の都市開発がされていないことに逆にポテンシャルがある。官と民が協力して新しい道を出そうとしていることによる最先端のアーバンデザインが展開できる可能性がある。

○概要版の作成について

- ・概要版は成果物の圧縮版ではなく、一目でわかるようにどう目に飛び込ませるか、作り方を工夫したほうがよい。
- ・概要版がこの資料のダイジェストになっても大抵の人はスルーしてしまう。どのようにこれを使えばよいのか、自分が何をすればよいのか、解説がある方がよい。
- ・まちづくりに参加する人だけでなく、暮らしている市民にも、理解をして頂きたい気持ちがこの中に滲み出ている。概要版は市民に向けたものもあっても良い。
- ・市民目線や、投資家目線での行動のガイドラインがあった方がよい。
- ・産業政策にもかかわってくるため行政職員向けに説明するものがあったもよい。

○策定後の実現化について

- ・官だけでつくるものではなく民も一緒に連動してつくっていき、そして投資機運を高めていくことが重要なのかなと思う。
- ・環境に投資できない時代でもない。例えばグリーンインフラという考え方で、下水などのインフラにかかる費用を緑に投資できるというお金の使い方のできる仕組みの実例がアメリカにある。日本でも国交省の政策局が検討会を行い話題になっている。そういう考え方もいち早く取り入れ、環境整備をして行き、それがまちのためになり、人を増やして自治体経営を良くする。これにより、環境整備予算も誰かに頼らなくても、自治体経営の中から投資していくことが出来る仕組みを構築するべきだ。

○民間の取り組みについて

- ・実現に向けては、主体が単体の企業などにより形成されがちになる事があるが、ワークショップの中から実行したい人が出てくればすごく良い。
- ・よいまちは奥行きが感じられ、ハレの部分だけではない。夜のまちのあり方や、路地裏のまちのあり方などがあるが、その部分を民間側で、やりたいと思う人たちに繋げる必要があると考える。

4. 閉会